

## 平成 30 年度 第 5 回 社会教育委員会会議録

開催日時 平成 31 年 1 月 29 日（火）午後 1 時 30 分～

開催場所 恵那市役所 4 A 会議室

出席委員	委員長	近藤 慎平
	副委員長	林 達夫
	委員	春日井 善久
	委員	磯部 彰
	委員	遠藤 茂樹
	委員	山田 恵市
	委員	鈴木 八枝子
	委員	柘植 弘成
	委員	森川 伸江
	委員	松村 通男
	委員	田口 容子
	委員	加藤 稚奈子

説明のため出席した社会教育委員会事務局等

教育長	大畑 雅幸
生涯学習課課長	伊藤 英晃
社会教育指導員	遠藤 滋
生涯学習課課長補佐	安田 英明
生涯学習課係長	荻山 勝
生涯学習課総括主査	平林 範子

議 題

1. 平成 30 年度第 4 回会議録承認
2. コミュニティ・スクールについて
3. 生涯学習課の家庭教育の取り組みについて報告（報告）
4. 放課後児童の健全育成指針策定について（報告）
5. その他

開 会（午後 1 時 30 分）

議題 1 平成 30 年度第 4 回議事録承認

平成 30 年度恵那市社会教育委員会第 4 回会議録が承認されました。

## 議題2 コミュニティ・スクールについて（教育長）

コミュニティ・スクールについて恵那市の子どもたちの背景にあるものから説明をさせていただきます。今恵那市では、急激な少子化が押し寄せています。高校の願書については、一昨年には恵那高校の定員割れや、恵那南高校が定員の半分もいかないなどの状況の中で、いろいろと取り組んできました。恵那南高校が廃校になってしまうと明智にあるいくつかの企業に就職する人も減少し企業の撤退にもなりかねない。また、明知鉄道も廃線に追い込まれる。高校の定員を順番に減らし今年には、60人となりました。少しでも子育て世代が安心して暮らし、子どもたちがよその自治体に負けない力をつけることが私たちの使命です。必死にできることからする。私は現在毎週月曜日の18時から20時半まで、恵南地区の子どもたちに理科を教えています。退職された先生にもお願いして5教科の指導をしています。笠岡地区でも同じように開催しています。保護者から「町の中はいいが山間地区は塾がなく子育ては不利だ」という声に応える取り組みを無料で実施しています。もっと多くの子どもが来てほしいと思いますが、私のクラスでは、最初20人、今では4人。送迎は保護者でしていただくので、そのあたりが原因かもしれませんが、来た子どもは本当に一生懸命取り組んでいます。

また、先週は市PTA連合大会研究大会を実施しました。138名の方が参観され、前半30分はICT教育について後半は白川村の白川郷学園義務教育学校という小中、合わせた一貫校での校長先生からの話でしたが、白川の人は大人も子どもも観光で生きていくと決め、子どもたちの教育をおこなっている。子どもたちは、英語、中国語、韓国語が話せます。外国からの観光客にも対応できる力を子どもがタブレットを操作しながら後ろの壁に映った写真を英語で、それも大勢の前でしゃべる力を身につけています。ここにいたるまでには、やはり家庭での特に母親の在り方が大切であると話されました。参加されたPTAの母親の中には涙する方も多くおられました。特に自分の今の在り方を思い知らされるような良い話を聞くことができました。当然ICT教育も大切ですが、もう一つ子ども達にとってもっとも大切なのは人格形成です。社会にでたときに自己実現していける粘り強さがないといけません。今回このコミュニティ・スクールの組織を使って何をするのかというと、特に学習集団が小さい中で、世の中の目まぐるしい変化に対応できる主体性を身に付けるためには、学校の中の教育だけに限らず物理的な面を補うためにも地域の方々の教育力をおかりしたい。学校運営協議会をつくりいろいろな地域のリーダーの方々に入ってください、校長の学校運営の1年間の目標に対し意見を賜り承認していただきます。また、実働部隊でないのもので、各代表の方は、持ち場にもどられた時に、そこで子ども達に働きかけができるよう支援をお願いしたい。教育委員会から学校長にこのメンバーに必ず入れていただきたい人をお願いしてあります。PTA会長、地域自治区の方、振興事務所長、塾長、

保護司、民生主任児童委員、放課後子ども教室の校区コーディネーターなど。その他子どもを育てる上で、地域として考えた時に何が大切か。そこの代表の方。例えば串原でいえば中山太鼓の代表の方。平日はもちろんのこと、土日も地域で子どもを育てるといふところでご協力をいただきたい。いろいろな立場の人に出会い、いろいろな経験をし、この先の多様性に対して対応していけるたくましい子を育てていきたい。これが、願いです。社会教育委員の方々にもそれぞれのお立場でぜひご支援をお願いします。

また、来年度お時間をいただいて具体的に状況について、説明をさせていただき、本日はねらいとしくみの説明をさせていただきました。以上です。

## 委員

今コミュニティ・スクールのお話が教育長よりありましたので大井第二小学校のコミュニティ・スクールについて報告をさせていただきます。学校サポーター募集ということで、「学校に地域のお力を貸してください」というチラシを準備しました。裏側には、こんなことをお助けください。という趣旨を書いたものです。そして、地域に回覧し学校がこんな願いをもっているということを地域の皆さんに知っていただくことがひとつ、そしてもうひとつは、校長や教頭がいろいろな会にお邪魔し、こんなことを考えていますが協力をしていただけませんかとお願いに上がる。そちらのチラシには申込用紙が入ったものを配布します。来年度に向けて進み始めました。

## 委員長

また、結果を是非報告してください。

## 委員

コミュニティ・スクールの委員として PTA 会長も大変だと思いますが、今 PTA などの役員になられる方の選出が大変だと思います。仕事も忙しいなか役をうけることの大変さをどうしたらいいのか。学校の先生も応援していかないと学校教育や子ども園の教育部分のなかで理解をする必要がある。今後大変不安です。

## 教育長

今月の東濃地区の定例教育長会で、教育事務所長からの指示事項に年度初めに PTA は任意の団体であること、全員加入でない。これを承知の上で加入をお願いしたいことを伝えなければならない。これを周知しなさいということでした。子どもの数も減る中 PTA 会費の値上げもさることながら役が回ってくることのほうが、負担である。これは、自治会に加入しないということと同じ現象です。昔であれば入るのは当然で疑問にも思わず加入していました。次回の校長会に提案をし、どのような形で保護者に周知をしていくか検討していきたいと思っています。

## 委員長

PTA 不要論という本を読みましたが、データは東京都のもので、極論をいうと子どもは社会が育てるものであって親が育てるものではないというくらいの発想です。先ほど教育長からの話にもありましたが、せめて恵那市は学校と地域住民がもう少し連携をして話し合い、手を携えていきたいと思いますという雰囲気は是非つくりたいと思います。今後コミュニティ・スクールについてもいろいろな課題がでてくるとは思いますが、意見を交流しながら良い環境をつくっていききたいと思います。

## 議題3 生涯学習課の家庭教育の取り組みについて（報告） 事務局

生涯学習課では社会教育指導員の堀先生を中心に各コミセン主事が企画・運営し乳幼児期の家庭教育学級を開催しています。どの教室も「ねらい」を設定し取り組み、同じ内容で3年間アンケートを実施しました。また、指導員から成果と課題を検証していただきましたので、報告します。

一つには、学級生の意識が大きく変化したこと。最初は、要望が多くみられたが、現在では、自ら学び日頃の子育てに役立てている姿があること。また、自分の地域以外の学級にも参加したり、市外の学級生もおられ求めて学ぶ姿が増えたことや学級の役員になり、すでに我が子は子ども園に通園しているが、学級のある日は、仕事の休みをとり参加しているなどの報告を受けています。

二点目は、主事にもアンケート結果を報告し、ニーズに沿った活動内容や地域の母親に寄り添う姿があり、地域の主事としての役割が大きいことが挙げられています。また、課題としては支援と学びの関係や今後乳幼児期・学童期・中学校期と連携した家庭教育の具体的な手立てが必要であると報告がありました。アンケート結果も本日配布させていただきますので、ご自宅にてご覧ください。

## 委員長

家庭教育支援計画に基づき実施されているため当然成果と課題がありますが、来年度さらに充実させることができるようこのアンケート結果が活かされるとよいと思います。

## 委員

昔は家庭教育学級が幼稚園と小中にありましたが、こども園になり園では家庭教育学級を実施することに対し難易度が高くなっています。今は各園5千円の予算がいただけると言うことで、工夫して各園が実施しています。以前のような物を作るような活動はなく、家庭教育学級の内容を講話にするとなかなか人も集まらない。教育委員会からも無料の講師などの紹介もしていただいているが、家庭

教育学級を実施するにあたり、母親たちのニーズも入れていかないと多くの人に聞いてもらえない。読み聞かせにしても、親に対しても読み聞かせをしたり、歌を交えて話しをしてくださる講師については、5千円では足りない。限られた予算の中で、今のお母さんたちに伝えることができるのは小さなことの積み重ねだと思いますが、一律5千円でなく、乳幼児期の家庭教育学級のように成果がでるよう、また報告の課題にもあったように幼児期、学童期、中学生と家庭教育の難易度は高くなっていくと思うので幼児期に家庭教育学級を上手く伝えることができれば、小学校に行ったときも自身が参加する姿勢が自然に身につくと思います。また家庭教育は大切ですが、講師一人をお願いするにもお金がいることもあります。

#### 教育長

今お話があったように家庭教育の予算は少ないですが、いろいろな補助金を申請するのもひとつです。また各学校には学校林があったり、地域から地域の子どものために使ってくださいということでいくらかのお金をいただいています。こども園にはないかもしれないので、そういう場合は一緒に家庭教育学級を実施するというのも考えてみてはいかがでしょうか。また、先ほど話しましたコミュニティ・スクールについては年度末に計画書を記入し予算書もつけて提出していただくと思っています。備品購入以外は無理ですが、謝金や旅費などについては補助金に該当します。手間はかかりますが、誰かが中心になって実施していくことだと思います。

#### 副委員長

今のお話で、こども園がコミュニティ・スクールで一緒にやっというと思うと、組織に入らないと難しいと思います。乳幼児期・学童期・中学校期と同じ土俵にいないと要望がだせない。そこの辺りも考えていかないとだめですね。乳幼児期については、成果と課題、考察にあるように非常によく進んでいると思います。母親が非常に協力的で、子育てを自分たちがしなければいけないと変化しています。家庭教育学級はいいことだと感じている。その他の年齢の家庭教育学級でも形式的にやるのではなく、我が子が大切であると同時に参加するとためになるというような内容にしないとだめだと思います。在職中に委員長が計画し家庭教育学級を実施したことがありますが、なかなか人は集まりませんでした。一生懸命取り組みましたが、まだ保護者のニーズや要望からはかけ離れているということだと思います。大繁盛になるぐらいの家庭教育学級をしようと思うと数多くしないといけないと思います。強制するわけにもいきませんので、最初は少人数かもしれませんが、参加したことによって良い体験ができたという実感を与えるようなことを考える必要があると思います。また、補助金については、こんな補助金が使えろというような紹介を行政の方からもしていただけると良いと思います。

#### 議題4 青少年放課後健全育成指針について（報告）

事務局

恵那市放課後子どもプラン基本指針が策定10年目となり次期の指針を策定しています。児童の居場所づくりについては福祉部局・教育部局などで「放課後児童クラブ」（学童）や「放課後こども教室」など様々な事業を実施しています。生涯学習課で実施している放課後こども教室は「社会教育委員さんの協力で策定しましたステップ親子学びプラン」のなかで乳幼児期・在園期・小学校期と切れ目のない支援を目指す事業として位置づけられています。体験と交流を重点に地域の实情に合わせて小学校を中心に月1回程度開催しています。この事業を含め児童の放課後の過ごし方について指針を策定するもので、今回の3月には指針案ができあがりますので、社会教育委員の皆様の意見をお伺いしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

委員長

教育委員会部局と市長部局との領域がはっきりしていない、教育課程があるののかないのか教育活動なのか保育活動なのか、そのあたりをはっきりしないとこれからの在り方に関わってくるとおもいますので、次回検討できればと思いますのでよろしくお願いいたします。

#### 議題5 その他

事務局

三学塾長のアンケートについて説明をさせていただきます。昨年より各コミュニティセンター等に視察に行ってくださいました。そのなかで、みなさんからのご意見の中に、コミュニティセンターの在り方や塾長の役割あるいは、主事の役割など課題が多くあるということで、林副委員長より塾長に対しアンケートを作成していただきました。今回は塾長に対してのアンケートですが、主事に対してもアンケートを実施したいと思います。アンケートの回答についてはまとめた後、委員の皆様に報告し来年度の社会教育委員会の活動にも役立てていきたいと考えていますので、この場で皆様にご了承いただければと思います。

委員長

コミュニティセンターの活動を知るために以前塾長会の視察をさせていただきました。その様子からその実態をもっと勉強したいという思いと塾長自体がその地域でどのように取り組んでみえるのかをお聞きし、社会教育員の私たちも将来どうあるべきかを勉強したいということで原案を提案させていただきました。本日皆様にご了解いただければ各地域の塾長に回答していただきたいと思います。

委員

各委員アンケート実施を承認されました。

事務局

本日はどうもありがとうございました。

午後 3 時 20 分閉会

平成 31 年 1 月 29 日 (火)

社会教育委員 近 藤 慎 平

社会教育委員 林 達 夫